

特集

ここから 東京芸術大学の

二十一世紀を迎えて、芸大は〈感性教育〉の拠点として、何を果たしていくべきか。
学長を囲んでの特別座談会と、六人の教官へのインタビューで探る、芸大の未来像。

座談会

芸術教育がになう 役割と課題

時代が変化を求めるとき新しい芸術は生まれ、時代を切り拓く——。
文化立国に向けて芸術が重要視されるなかで、東京芸術大学には牽引役としての
役割が期待されている。歴史ある芸大が21世紀に果たすべき課題とはどのようなものなのか。
遠山敦子文部科学大臣と樋口廣太郎東京芸大運営諮問会議議長にお集まりいただき、
澄川喜一学長と、本学の今後のあるべき姿を語っていただいた。



経済大国から、文化立国へ

澄川 本日はお忙しいところお集まりいただきまして、どうもありがとうございます。

東京芸術大学ではこのたび学外向け広報誌「藝大通信」を創刊することになりまして、お二方にぜひ、今後芸大が果たすべき役割や課題についてご意見を伺いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

歴史を振り返りますと、芸大美術学部の前身、東京美術学校の前身である工部美術学校が開設されたのは一八七六年（明治九年）のことです。明治維新の五年前、一八六三年に伊藤博文らがロンドン大学へ留学して、当時の進んだ西欧文明を目のあたりにして大きな衝撃を受けたわけですが、日本を近代国家にするにはまず人材を育てなくては行けないと、彼らは帰国後に工部大学校（現在の東京大学工学部）を設立しました。同時に、柔軟な発想と創意工夫のできる感性豊かな人材を育てるために設立されたのが工部美術学校、そして改めて創立されたのが東京美術学校、いまの芸大なんです。音楽学部については、音楽取調掛の設置（一八七九年）と、それを改めた音楽学校がもとになっています。国を興すには技術と芸術という二つの「術」が欠かせないということだと思います。

遠山 日本はここ十年以上経済が停滞し、国民も誇りを失い始めています。かつての輝きを取り戻そうと、小泉政権は構造改革を推し進めています。たしかに経済というのは非常に大事ですけども、その国の品格を表し、伝統を伝え、将来の創造につながる役割を果たすのは文化だと思います。日本には優れた文化と伝統がありますが、これらを継承していくと同時に、現代にマッチさせ発展させていくことが重要になってきます。その意味で芸大は、芸術文化を専門的に深く究めている日本唯一の国立大

学であり、歴史的にもたいへんな蓄積をもち、すばらしい人材を数多く輩出しておられる。「文化立国」(★1)という面でも、芸大に寄せる期待は非常に大きいですね。

樋口 極端に言いますと、芸術がなくても人間は死なないんです。しかし、芸術は、社会に大きな活力を与え、変化を投げかけることができる。たとえばルネサンスがそうであったように、歴史を振り返ると、日本でも西欧でも文化が栄えている時代には必ず変化が求められている。見方を変えれば、変化があるときに文化が生まれると言えるかもしれません。いま、日本に必要なのは変化ですが、それを促すのが芸術なのではないでしょうか。

神話を例にしますと、天照大神が天岩戸に隠れたとき、世の中は暗くなりました。要するに、光を持っている人、明るい人がいなくなったら暗くなってしまう。そこで天鈿女命が岩戸の前で踊ると、天照大神はにぎやかさにつられて思わず岩戸を開けてみる。そこを手力雄神——いちばんの力持ちが一気に岩戸を開けて、光がさしこむ……。手力雄神は経済、天照大神が芸術ですよ、これは非常に象徴的だと思います。

新たな芸術は、つねに作品から始まる

樋口 私が日本文化のなかで興味を惹かれるもののひとつに、鳥羽僧正の「鳥獣戯画」があります。サルとかウサギ、カエルを擬人化する、言ってみれば「マンガ」のはしりですよ。時代がずつと下がり、明治時代になって、岡本一平がマンガを描いたときにも、画家がマンガを描くとは何事かといった批判があつたけれど、夏目漱石がこれもおもしろいじゃないかと評価した。明治きつての知識人がそう言ったとたん、マンガに対する世の中の感覚が一転してしまつたんです。そうした芸術の流れを見ると、日

本はおおらかですよ。西欧の場合は、キリスト教に仕えるものでなければ認められなかったわけですから。

いまの話でもう一つ言えるのは、新しい芸術は理論から始まるのではないということです。芸大の歴史を見ても、美術学校第一期生の横山大観に始まり、錚々たる作品群にまず目を奪われます。いま、芸大の運営諮問会議の議長をやらせていただいています。理論ばかりで作品をつくらぬ人が芸術を教えるというのはおこがましいのではないかと思います。作品づくりを意欲的にやるには発表の場がまず必要ですが、それが奏楽堂であり、大学美術館だと私は思います。やはり作品そのものがエネルギーになっていくのではないのでしょうか。

私は東京都現代美術館の館長もやらせていただいています。着任してから最も盛況だったのは、フッショナルデザインナーの三宅一生さんの展覧会でした。ドイツにも巡回して大成功しているようですが、作品あつての芸術とつくづく感じます。もちろん理論も大事ですが、理論の一手手前というか、物事を考える上の手助けをすることが芸術の根本なのではないか。芸術がなくても人は死なないけれど、あつたほうが楽しいし、豊かにしてくれる。世の中を変えることもできると私は考えておりますから、芸大の運営諮問会議にもますます活力を与えていきたいと思っております。

澄川 芸術にかぎらず、人が生活していく上では創意工夫が必要です。何か問題に直面すると、どうやって解決しようかという創意工夫の意欲が湧いてくるわけですが、それが芸術なのではないでしょうか。「芸術」という言葉が硬くなりますが、人生のあらゆる場面で創意工夫のできる人材を育成していきたいと思えます。

芸大を出て、職業的な芸術家になる人もいれば、日常生活のなかでフラワーデザインやインテリアデ

★1 文化立国

一九九八年三月に文化庁が策定した「文化振興マスタープラン—文化立国の実現に向けて—」に基づく文化行政の総合的推進政策目標。

「文化立国に向けて」と副題が付けられた「平成十二年度教育白書」（文部科学省）では、次のように記載されている。
「文化庁では、文化行政の基本的な役割は、伝統的な文化を踏まえ、個性ある文化を振興することにより、心豊かな社会の実現に資することにも、これを世界に向けて発信し、人類の文化の進展に資することであると考えています。このように、内にある文化をもつて国民共通のよりどころとなし、外にある文化を文化立国と位置付け、その実現に努力していきたいと考えています。」



遠山敦子

とおやま・あつこ

文部科学大臣
1962年東京大学法学部卒業。
文化庁次長、文部省高等教育局長、文化庁長官、駐トルコ共和国特命全權大使、国立西洋美術館館長、独立行政法人国立美術館理事長ほかを歴任。
01年4月より現職。

に、一国の豊かな土壌をつくつていきます。その意味でも、芸術家たちはとても大事な存在なのだと思います。

樋口 芸術のなかには、たとえば「琳派」のように工房フクトリというかたちで傳承されていくものもありますね。実を言いますと私の先祖は琳派でして、

もとは北面の武士だったのが、趣味がこうじて樋口という姓を捨て、丸屋半兵衛という金蒔絵師になつたんです。デザインは尾形光琳や俵屋宗達たけが描いたかもしれないけれど、彼らが石を彫つたり金蒔絵を描いたわけではないのです。

遠山 琳派の残した芸術は当時としては非常に斬新なものだったのですが、今日、私たちの目から見ても、やはり時代を画していると思います。桃山時代の絢爛豪華な芸術の革命的な時期は、琳派だけではなく、能楽をはじめ茶道とか華道とか、さまざまなものが発展した時期でもあります。わが国の誇る一時期で、その後江戸時代に入っても、ずっとその成果は引き継がれています。

一人の優れた人が作品を残し、その人が大きな組織なり集団をつくつて力強く引つ張ること、一つの時代を画していく――それは国にとっても、文化の大事な転換点でもあります。音楽でも、バッハがそれまでの時代の集大成をし、その後モーツァルト、ベートーヴェンと次々に繼承・発展させる音楽家が出てきましたが、バッハの音楽はいまも輝きを放っています。こうした波及効果は最初に走る人とはとくに自覚してはいないのでしょけれど、だからこそ行政や社会は芸術の波及効果の大切さを認識して、優れた個性が伸びていくよう支えていく必要が

あるのだとあらためて感じます。

樋口 文化庁、あるいは文部科学省の果たしている役割はますます大きくなると思いますね。そういう面では私も非常に喜んでやらせていただいております。財政制度審議会でも私がやらせていただいておりますから予算が二倍になりました。つまり、芸術のもつ波及効果や重要性は、国も認めているんですよ。

芸術を生み出す方たちへの期待として申し上げたいことがあります。染付陶芸作家の近藤藤三さんが言った、「職商人しやくあきんど」という言葉なんです。芸術家は職人であると同時に、商人でなければいけない。つまり、いいものをつくつたのだから褒められて当たり前というのではなく、どういう工夫をしてこれをつくつたかを説明できて皆から評価されるようになってはならない、という意味です。商人というのは金儲けという意味じゃなくて、説明責任、いまだ言うアカウンタビリティですよ。

澄川 たしかに、ただ閉じこもっていたのでは理解してもらえません。

映像芸術の研究・教育がより重要に

樋口 東京都現代美術館では、いま村上隆さんの展覧会（八月二十五日～十一月四日）を開催しています。彼は東京芸術大学で日本画を勉強して、そこからアニメやマンガ、ゲームといったサブカルチャー領域に切り込んでいますが、横浜美術館ではほぼ同時期に奈良美智ならみちさんの展覧会（八月十一日～十月十四日）をおこなっているんです。彼は村上さんより二歳年上で愛知県立芸術大学の出身ですが、いわば良きライバル同士である二人の個展を同時期に開催することが相乗効果となつて、お客さんが両方とも観たいと、東京と横浜の両方を行き来しているんです。もともと彼らはサブカルチャー的なものをやるつもりでスタートしてはいませんが、お

ザインを続けていく人もいるでしょう。水は地表を川となつて流れているだけではなく、地下の深いところでも脈々と流れているように、必ずしも表立ってはいなくても、さまざまところに浸透して生活文化全体を引き上げているわけです。

遠山 先般、大学美術館でおこなわれた先生の退官記念展「そのあるかたち」（二十一頁・NEWS欄参照）を拝見しまして、非常に感銘を受けました。いろいろな素材を使いながら素材の心を読み取り、ご自分の主張を投入して非常に美しい形へと昇華なさっていますね。芸術家は自分のすべてを作品に投入し、人間そのものが充実していないと作品もいいものにならない。これは非常に大事なことです。大学教育はその辺を自然と悟らせるものになればいいと思います。

また、最先端に行く芸術家は、その人が生きていくときは固有名詞を持ち、渾身の力を込めて表現されるわけですが、幾世紀か経ると、その芸術家が切り拓いた時代や特色を継ぐ人たちが出てきて、ある普遍的な芸術文化の層を形成し、やがてはその人を生んだ国の文化になるんですね。つまり、一人ひとりの芸術家の活躍は、同時代に生きる人びとの心を豊かにするだけではない。彼らの芸術が次第に蓄積され、それぞれの作品が燦然さんぜんと輝き続けると同時

二人とも時代の要望に合ったということでしょう。

遠山 二十一世紀はITの時代でありますし、それから国民の興味、関心の種類が従来型のものだけでは満足しなくなっています。そこで、今後さらに重要になってくると思うのが映像文化です。映画やアニメのような映像芸術は、日本にとって非常に得意な分野でもありますね。これをもっと伸ばしていく必要があって、新しい映像文化についての研究なり教育なりを充実したいものです。思えば、現代の大変優秀なアニメ作品の先駆けとしては、さきほど樋口さんがおっしゃった「鳥獣戯画」もあるわけですし、映画の分野では、黒澤明監督のように世界に誇るべき作品を生み出してきましたが、映像の文化についても、ぜひ世界を先取りする作品を発信してもらいたいと思います。映像の醸し出すインパクトや感動は、世界の人々を揺り動かす大きさを持っています。

澄川 一九四九年（昭和二十四年）に美術学校と音楽学校が一緒になって芸大になったんですが、芸大になるときは映像芸術科をつくらうとしていたんです。

さきほどのお話にもあったように、芸術にはライバルの存在が重要だと思います。音楽と美術は「酢と油」の関係だと私は言っておりまして、学長が上手にかき混ぜて胡椒で味つけをすれば、すごく美味しいドレッシングになる（笑）。酢と油という相容れないものを比喻にもちだしたのは、音楽と美術は専門領域は違うけれど、おたがいに切磋琢磨しなくてはならないという意味です。いま大臣がおっしゃったように、つねに時代を意識して動きつづけなくてはならないわけです。

芸大では、すでに先端芸術表現科を三年前にスタートさせています。色と形と音と光が全部そろわないと、無味乾燥になってしまう。美術と音楽は重なる部分もたくさんありますから、領域を超えて芸大

はやるうと動きはじめています。

樋口 ところで横浜のみなとみらい地区では、いま「横浜トリエンナーレ2001」（九月二日〜十一月十一日）が開催されていますね。現代美術の最先端の動向を紹介しながら、映像・音楽・美術など複数の芸術ジャンルや科学や哲学との交流も試みる日本では初めての大規模な国際現代美術展です。私はついこのあいだベネチア・ビエンナーレから帰ってきたばかりだったんですが、さっそく観にいって、「日本はすごいな」と感激しました。

遠山 水は低きに流れると言いますが、私は「文化は高きを集まる」と考えています。日本にはいろいろな伝統がありますが、これからは現代的な創造的活動を活性化させて、もっと世界へ発信するべきでしょう。たとえば、さまざまな文化に関する国際会議やフェスティバルを開催していくなかで、世界中から人々が集まってくれば、日本自体の芸術文化も高まるし、人材も集まってくるでしょう。

そのような意味でも、私は文化発信はものすごく大事だと思います。かつて大使としてトルコにいたとき、日本の芸術作品を展示したり紹介する機会に恵まれたおかげで、トルコの人たちの日本に対する見方がたいへん変わってきたんです。その際には、洋楽、邦楽、美術など芸大の先生方には随分お世話になりました。もともとトルコの人たちは親日的なのですが、たんに経済援助をしてくれる国だと思っていたのが、ますます尊敬を得たというように感じました。文化を発信して日本の豊かな文化を認識してもらうことは、外交的にも非常に有効な手段ですし、長い目

で見れば、日本の安全保障にもつながると思うのです。

澄川 たしかに、芸術には国境はありません。

樋口 おっしゃるとおりですね。今年「日本におけるイタリア年」ということで、いろいろな催しが開かれていますけれど、イタリアが長年主張してきたのは、日本からは何の作品も来ないじゃないかということ。日本の仏教美術には、世界に誇れるような作品がたくさんあるにもかかわらず、宗教上の制約があって海外に持ち出すのは非常に難しい。フランスのシラク大統領も、ぜひフランスへ持ってきてほしいとおっしゃるのは、やはり仏教美術が中心のようですね。

遠山 文化庁の長官をやったときに、イタリア側からそういう不満の声を聞きました。それで、イタリアに持っていったのが「信仰の美四〇〇〇年」展なのです。縄文時代の火焔土器から始まり、仏像や仁王像の数々、琳派の屏風絵で終わるたいへん立派な作品ばかりの展覧会でした。今回のイタリア年の豊富な文化行事は、そのような文化交流の歴史をバックに持っていると思います。

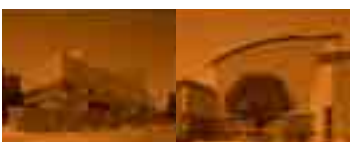
樋口 土器と言えば、今年、東京国立博物館で「土器の造形——縄文の動・弥生の静」が開催されましたね。私は、心の底から圧倒されました。あ



樋口 廣太郎

ひぐち・ひろたろう

東京芸術大学運営諮問会議議長
アサヒビール株式会社取締役相談役名誉会長
1949年京都大学経済学部卒業。
住友銀行取締役副頭取を経て、92年アサヒビール代表取締役社長に就任。
99年より財団法人新国立劇場運営財団理事長、
00年より東京都現代美術館館長も務める。



座談会★
芸術教育がになう
役割と課題



澄川喜一

すみかわ・きいち

東京芸術大学学長
1956年東京芸術大学美術学部彫刻科卒業。58年同美術学部専攻科修了。
67年東京芸術大学美術学部講師。同助教授、同教授、同学部長を歴任。
95年より現職。

の、炎の造形のすばらしさは筆舌に尽くしがたい。
遠山 縄文時代に、あれだけの造形表現ができたというのは、すごいことですよ。土からあのよう力強く、かつ、澁刺^{はつらち}とした造形を作り出した古代の人々の創造力とエネルギーに感服します。

澄川 そのころまだ、美術学校はなかったですから(笑)。いろいろご注文はあると思いますが、こんど、音楽学部が学外のご支援をいただきまして十月にロンドンで演奏をします(★2)。われわれはイタリヤ料理とかフランス料理ばかりを食べてきたけれど、これからは向こうの人たちに和食の良さを知ってもらおう時期だと思っています。数年先には大学美術館でも大規模な交流展を開く予定です。

遠山 クラシック音楽演奏や彫刻というのは非常に普遍的ですね。どこに行っても理解される。でも、そのなかに、やはり日本的な何かがあるんですね。澄川先生の作品も、木のぬくもりや木のなかに込められた日本の美しさ、日本の持っている文化の美しさというものを主張しておられると思います。それがすばらしい。日本人らしさをなくして無国籍になつてしまったら、おもしろくないですよ。

澄川 「そのあるかたち」には、たまたまニューヨークで八年前に個展を開いたときの作品も入っていますが、当時現地の記者が、「ストライキング・

スカルプチャー」と評してくれました。つまり「これこそ彫刻だ」という意味でしょうか。私自身は自分の表現が、日本的だとはまったく意識していないのに、向こうの人の目には日本人の作品として映る。作品には、滲み出ているのでしょうか。
遠山 「滲み出る」というのは、たいへんいい表現ですね。それが大事だと思います。最初から日本的であろうと意識する必要はないのでしょうか。

文化は国のショーウィンドーである

遠山 いま文化芸術創造プランとして、新しい予算要求をさせていただいております。これまで、オペラやバレエの公演を開く場合、なかなか予算が出なかつたんですが、もつと資金を補助するようにしようと考えています。おそらく、文化立国に向けての非常に大きな胎動が、二十一世紀の初めに起きると私は思っています。

たとえばフランスは、世界でも第一級の文化大国というイメージがありますが、いまのような文化国家になったのは、じつはそんなに古くないんです。ミッテラン政権のラング文化大臣が文化予算を一気に倍増してからで、以降、記念碑的建造物を次々につくつたりルーブル美術館も充実させて、一気に文化立国を推進したんですね。いまフランスは、国家予算の1%を文化に使っていますが、日本は、わずか0.1%です。

澄川 やつと0.1%になつたんですよ。
樋口 フランスといえば、いまの三倍くらいの規模でポンピドー・センターを新しく建設する計画があ

ります。その設計コンペで、日本の安藤忠雄さんが二人のなかの一人に残っている。嬉しい、いいニュースですね。

遠山 予算が十分あれば、文化施設の整備や充実が日本でもできるんですよ。羨ましい話ですね。

澄川 フランスがうまいなと思うのは、じつは農業国なのだけれども、文化を前面に出している点です。ショーウィンドーのように、国のイメージづくりに文化を使っている。

樋口 英国もそうですよね。

遠山 日本も、世界に誇り得る文化を持っているのですから、もつと積極的に発信していくための努力をしていくことが必要でしょうね。

樋口 日本でも、上野駅からきれいな地下道を通して国立西洋美術館や東京国立博物館、芸大に行けるようにすれば、だいぶ変わりますよ。

澄川 アメリカのスミソニアン研究所(★3)のようにしたらいいですね。

樋口 「米百俵」ですよ。やつぱりこういうときに使わなきゃいけない。

芸術の創り手と理解者の双方を育む

澄川 文化立国ということ言うと、やはり大事なのは心の教育、感性教育ですね。

遠山 心の教育というのは、小学校とか中学校時代、子どものときに本物に触れる感動の大事さが、本当にこれはいくら言っても言いすぎでないくらい重要です。ですから、その点も新しい文化芸術創造プランには盛り込んで、芸術の創り手を育てると同時に、芸術の良き理解者、サポーターとなる人たちが育てなければいけない。そのためにも学校での芸術教育で本物に触れさせる機会をもつと徹底的に増やそうと、予算要求しております。

樋口 ぜひお願いします。
澄川 芸大に入ってくるのは十八歳くらいからです

★2 英国公演

十月八日から二十日まで、東京芸大シンフォニアが、英国におけるJapan2001行事の一環として演奏旅行を行う予定であったが、米国内閣同時テロに対する米軍・英軍によるアフガニスタン攻撃が、十月八日未明に開始されたため、今回の派遣は延期となった。

★3 スミソニアン研究所

スミソニアン研究所は、アメリカのワシントンDC及びニューヨークに所在する十四の博物館・美術館・国立動物公園と、多くの研究機関を網羅する複合体で、世界で一番大きな博物館群。

★4 新学科構想

音楽学部の学科改組により「音楽環境創造科」を新設しようとする平成十四年度概算要求事項。この新学科は、●二十一世紀に相応しい、映像表現・身体表現やIT技術と結び付いた新しい先鋭的な音楽芸術創造、●トーンマイスターなど音楽を物理的に支える人材の養成、●聴覚を通じた人間と外界の様々なスケールにおけるコミュニケーションのあり方を探ることによる、より好ましい、より人間的な音環境の創造、●地域社会における芸術文化活性化のためのネットワーク造りといった芸術文化的社会環境構築とそための人材育成を行い、●音楽を取り巻く物理的・社会的な環境について総合的に考察し創造すること、を目指している。

から、もつと幼年期からの感性教育が必要です。そうなると、学校で教えるだけでなく家庭での教育が欠かせませんので、親自身の感性教育も重要になってきますね。いま大臣がおっしゃった幅広い文化行政が行き届かないと、どこかでバランスが崩れたときに脆弱になってしまうかもしれません。

遠山 文化行政に力を入れることは、たんに芸術文化と心だけの話ではありません。波及効果としてほしいようなものがありますね。産業にも影響しますし、それから科学技術の先端でも機能美ということが非常に強調されます。街づくりに関わってくる部分もあります。優れた芸術作品を創造する資質を活用し、社会のあらゆる分野の文化性を高めることに、大学としても協力していただきたいと思えます。

樋口 芸大には、全国の芸術大学と協力して推進していける領域がたくさんあるのではないかと思います。何しろ歴史が古いのですから、牽引役を務めることを期待しています。

澄川 おっしゃるとおり、いま私どもの大学がメディアアートの可能性や地域社会の芸術的活動について、積極的に発信しなければいけないと思います。おりにふれて私も声を大きくして積極的に発言していきます。

遠山 どうぞお力添えをお願いします。いまの時代、国も国民も文化の大事さに目覚めるべきなんです。国民の方がたには、まず文化を楽しんで、できれば文化活動に参加して、そして文化を支えていただきたいですね。国民一人ひとりの自発的活動が、社会全体を良くしていくのですから。

上野のE1帯を、日本文化の応接間に

澄川 さきほど新しい映像文化という話が出ました。芸大では、茨城県の取手キャンパスで美術学部先端芸術表現科をすでに発足させておりますが、音

楽学部でも、新しい分野を積極的に展開するよう、新学科構想(★4)を申請しております。

また、芸大は英語の名称を「ファインアーツ・アンド・ミュージック」、美術と音楽と表記していますが、今後は「アーツ」に変えていこうと思っております。さきほど申しましたように、美術と音楽だけをやっているというのでは広がりませんから、総合大学、総合芸術大学というようにしていきたい。そこで英文表記を、「アーツ」に変えようとしています。大学美術館と奏楽堂をつくっていただきまして、美術学部全体をファクトリー・ミュージアム(★5)にしようという発想もあります。

音楽でも、海外公演を企画したり、世界的なコンクールを芸大の奏楽堂でやろうと提案しているところなんです。ピエンナレと同じですね。四、五年で実現すると思います。上野という文化ゾーンには、東京国立博物館や東京文化会館、国立西洋美術館もありますし、協力して活性化していく構想です。

遠山 たしかに、あれだけの文化施設がそろっている地域は他にありませんね。誰でもいつでもあの地を訪れるとさまざまな美の感動を受けることができるようになると思います。しかも、樹木や自然の美しさとともに施設も充実し、快適な環境で芸術文化に浸れるようでありたいものです。

澄川 加えて、芸大という人材養成の場もありますから。将来的には外国の方がお見えになったとき、大学美術館でもてなしをしてもいい。要するに、日本の文化の玄関、応接間のようなになれば、と思っ

ているんです。

樋口 上野の山の下には、不忍池もあります。しかも皇居からも近いですね。両陛下をはじめ、日本の皇室の方がたは非常に文化に関心が深いですからたびたびお訪ねいただいております。

澄川 ありがたいことです。三笠宮様がオリエント考古学をおやりで、芸大でも客員教授として、ずっと毎年ご講義を担当していただいています。高円宮

様は根付の研究をされておりますね。

樋口 国を挙げて何か体制をつくらないと、文化国家とは言えないですね。一部の好きな人だけが行っているというのでは、まだまだだと思えます。

澄川 そのためには、心の教育がやはり原点になりますね。

遠山 ええ、そうですね。新しい世紀、日本も世界の国々も数々の難問を抱えています。私から日本人の高い資質に信頼を置いています。これからの日本にとって経済力の回復ももちろん大事ですが、同時に芸術文化をもっと振興し、豊かな心を持った国民を育成し、国際的に見ても魅力ある国家を造っていくことが大事でしょう。

澄川 心というのは、偏差値とかペーパーテストの結果で線引きできるものではありません。競馬じゃないですけど、いっせいにスタートしても皆と一緒にゴールを走るとはかぎらない。コースを早回しして早々とゴールインしているかもしれないし、遠回りして道草を食いながら順位ではない、いいことをやっていくかもしれない。広い意味での心の教育の一端をになうのが、われわれ芸大だと自負しております。

今後、ご指導をよろしく願います。本日は長い時間、ありがとうございました。

(二〇〇一年九月十日)

★5 ファクトリー・ミュージアム

一九九五年二月に美術学部でまとめられた上野キャンパス再開発計画の基本理念。各科専門教育棟群、大学美術館などを、順次、中庭を囲む形に建替えて配置し、キャンパス全体をもって美術館施設としての機能を持たせようとするもの。この施設群では、各科専門教育棟内展示室における学生平常制作の公開展示や学生の自主企画を始めとして、制作と展示が同時に進行し、作品と社会が「現在」という場において直接に対峙し合う場となし、さらに、実技各科がその枠組みを越えて、さまざまに連携する。なお、大学美術館は、この構想に基づき建築された。

★ 座談会 芸術教育がになう 役割と課題

